

令和6年度 庄原市児童生徒科学研究の進め方についての研修会

- 日時：令和6年5月1日（水）14：50～16：35
- 場所：庄原市ふれあいセンター コパリホール
- 参加者：庄原市内各小・中学校の教職員 22名
- 目的：科学的な態度や能力を育て、問題解決の方法を習得させる科学研究の進め方について研修し、庄原市内各小・中学校の科学研究を推進する。

講話・演習「科学研究の進め方」

講師：広島県立教育センター 教科教育部 指導主事 中島 純平

【講話・演習から】

- 昨年度の優秀作品の紹介から
 - ・印象的なタイトルの付け方、長期間にわたって丁寧にデータを取ること、探究の手順を踏むこと
- 2種類の豆苗の観察から
 - ・比較する中で様々に疑問点を考えること、疑問を掘り下げて問いを立てること
- 中学校学習指導要領解説理科編から
 - ・探究の過程において、「比較する」「疑問を掘り下げる」「関連付ける」「条件を制御する」「多面的に考える」のポイントを意識して取り組むこと

【令和5年度入賞作品から】

作品パネル等から優れた研究について学んだ。



【演習から】

- 課題設定の仕方において、実際に2種類の豆苗（1回切ったものと2回切ったもの）を観察・比較し、疑問点について話し合った。

【参加者の感想より】

- 児童がもった疑問は、そのままではなく、掘り下げて問いを立てることを大切にしたい。また、自然事象への気付き、疑問を出し合う時間をしっかりと保証し、児童の意欲を高めていきたい。
- 児童が継続的に根気よく研究を進めていくために、課題発見やテーマの決定に時間をかけ、知的好奇心をもたせて研究を始めることができるよう、多くの視点を与えたい。
- 課題の見つけ方では、2つのものの比較からスタートすると疑問をもちやすいため、題材を提示するときには2つのものを示すようにしたい。
- 日頃の授業において、「資質・能力」を育てるために重視すべき学習過程を踏まえて指導することの大切さについて理解を深めることができた。